

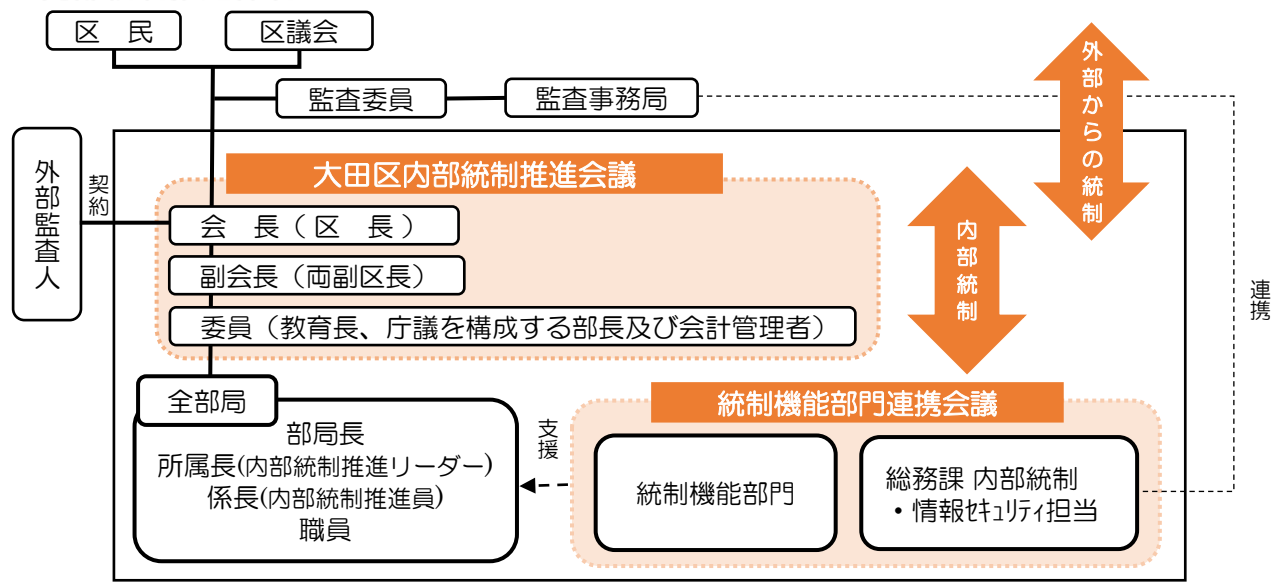
大田区内部統制取組報告書(令和7年度)【概要】

第1 大田区の内部統制制度(P1～3)

1 大田区内部統制制度の概要・方針

- 内部統制について、新しいものを構築することではなく「業務を適切に、そして効率的に行えるよう、リスク管理の視点からルールを整備し、守る仕組み」と定義
- 大田区内部統制取組方針の4つの柱「コンプライアンスの推進」「業務の効率的かつ効果的な遂行」「財務等に関する適切な事務の遂行」「区民の大切な資産の適切な管理運用」

2 内部統制推進体制



第2 令和7年度の取組(P4～30)

1・2 全庁及び各統制機能部門における取組

職員一人ひとりの責任・自覚を高めることを目的に、内部統制の整備・運用に取り組みました。

○内部統制推進アンケート調査結果

「この1年で自身の内部統制に対する理解と実践は進んだか」については、前年度比で3ポイント増加し、「以前と比べ、職場の内部統制の取組が進んでいると思うか」については、前年度比で6ポイント増加しており、職員一人ひとりの理解が深まっているとともに、職場全体の取組にも改善が見られました。

一方、事案決定についての理解度については、「事案決定が組織(大田区)としての意思決定であることを知っている」との回答が75%にとどまり、OJT等による理解促進が今後の課題です。

○情報セキュリティ対策

サイバー攻撃や他自治体事故情報の庁内共有、ネットワーク誤接続の防止や端末への注意喚起等、日常的なリスク啓発を実施しています。令和7年度は、研修、標的型攻撃メール訓練、セルフチェック等により職員の対応力を高めるとともに、情報セキュリティ監査や評価書確認により各所属の実態に即した支援を行いました。

3 内部統制における課題等

・令和6年度における主な課題に対する対応

(1) 制度定着のばらつき

コンプライアンス等の研修拡充や「内部統制の手引」改定により、制度の基本的な考え方を整理しました。

(2) マニュアル類の活用不足

ノーコードツール上にマニュアルを登録することで、横断的に活用できる仕組みを設けました。

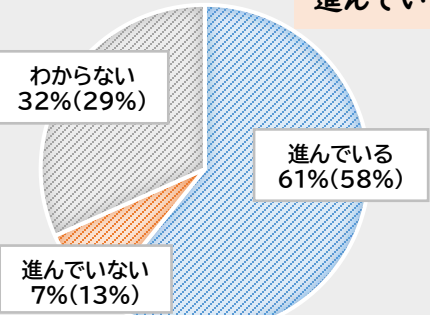
(3) 再発防止策の実効性

リスクを可視化できるよう、事故事例等を収集・整理し、「リスク事例集」としてまとめました。

(4) 職員のスキル向上の必要性

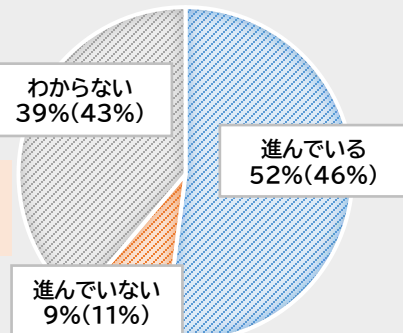
内部統制推進広報紙(Action!)の発行や、各種研修を実施し、職員の意識啓発に努めました。

「自身の内部統制」理解と実践 進んでいますか？(前年度)

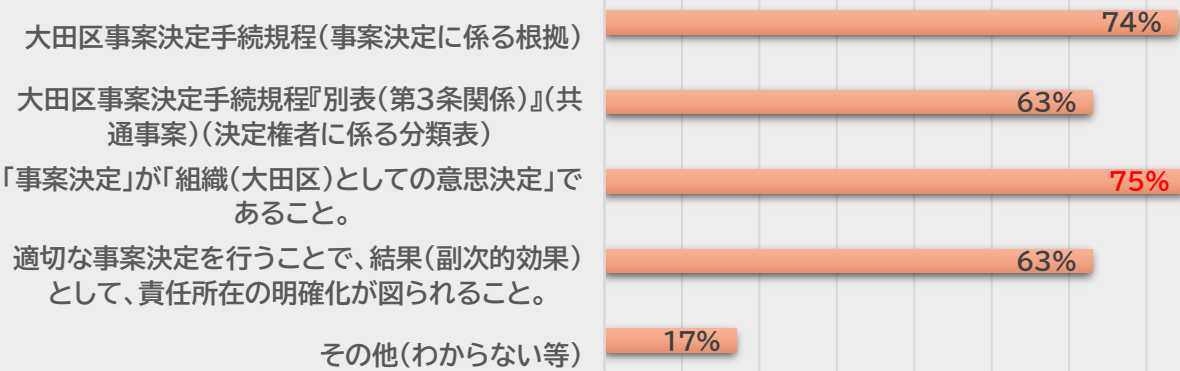


R6年度回答者数→1,044名
R7年度回答者数→1,241名

「職場の内部統制」 進んでいますか？(前年度)



事案決定について、知っている(一定の理解が出来ている)内容は？



【情報セキュリティ監査】

確認項目数 (4所属計)	重大な指摘事項	軽微な指摘事項
160	0	8
指摘事項	・USBメモリの利用について、「機器使用及び持ち出し管理簿」に未記載 ・無施錠キャビネットでの資料保管 ・ホームページ作成システム(CMS)の共用IDについて利用記録簿等を未作成 ・申請書等運搬状況の記載漏れ ・システム手順書の記載内容不足	
指摘事項への対応	各所属において、具体的なスケジュールを計画し対策を実施 情報セキュリティ委員会にて結果及び各所属の対応状況報告	

第3 今後の内部統制(P31～32)

1 目指す目標と到達点

「大田区内部統制取組方針」に基づき、適正な事務執行を通じて「区民から信頼される区政」の実現を目指しています。そのため、所属長の指揮のもと、係長を中心に全職員が主体的に関与する体制を整え、目標の達成に向けた内部統制の推進を図っています。

2 今後の方向性と取組

大田区では、総務省のガイドラインを踏まえ、実情に即した形で内部統制制度の整備・運用を進めています。

今後も、DXやICTを活用し、業務プロセスの標準化・自動化を図ることで、限られた行政資源の中、効率的かつ効果的な事務執行を推進し、持続可能な行政運営の実現を目指します。

また、現行のリスク管理票などを活用し、再構築したマネジメントサイクルの定着を目指すとともに、内部統制の推進に携わる職員の意識向上に引き続き取り組んでいきます。